

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,314	t-CO ₂
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		4,314	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	4,314	t-CO ₂	4,184	t-CO ₂	3.0

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当りの 排出量	0.09274	t-CO ₂ / m ²	0.08996	t-CO ₂ / m ²	3.0

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に1%ずつ、3年間で3%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当りの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・各資源の行動実践・冷暖房	冷房、暖房温度の適正化を徹底する。空調機更新時は高効率型省エネ機を採用する。空調フィルターの清掃、点検、保守管理で効率の良い運転を図る。	燃料の消費量を対前年比1%削減する
省エネルギー・各資源の行動実践・OA機器	コピー機、プリンター、FAXの台数削減を更に見直す。省エネモード設定や不在時、昼休み時の電源オフを徹底させる。不要照明等のこまめな消灯を行う。	燃料の消費量を対前年比1%削減する
自動車など輸送期間に関する対策	アイドリングストップとエコドライブを徹底する。社有車更新時には低公害、低燃費車を順次導入する。	
廃棄物の軽量化	両面または裏紙利用のコピー。新聞紙やビン・缶は分別回収してリサイクル。	可燃ごみ、不燃ごみの量を対前年比1%削減

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none">・環境関連イベントの主催、共催、協賛・自社ウェブサイトでのPR・環境啓発記事・広告の掲載
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

<ul style="list-style-type: none">・定時退社に努める
